

## 京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

( 3 年計画の 1 年度目)

### 1. 研究課題

(和文) 日中戦争・アジア太平洋戦争期朝鮮社会の諸相

(英文) Historical Research on Korea during Sino-Japanese and Asia-Pacific Wars(1937-1945)

### 2. 研究代表者

(氏名) 水野直樹

### 3. 研究期間

平成 24 年 4 月 から 平成 27 年 3 月 まで

### 4. 研究目的 (400字程度)

日中戦争の開始から日本の敗戦までの8年間は、植民地朝鮮においては「皇民化政策期」あるいは「内鮮一体政策期」と呼ばれる。この期間には、朝鮮の人的・物的資源を戦争に動員するために様々な政策が実施された。志願兵制度、労働者戦時動員、供出、徴兵制など戦争遂行に直接むすびつく政策だけでなく、日本語常用、神社参拝、創氏改名など「皇民化政策」と呼ばれる各種の政策が実施された。これらの問題について、各分野の研究者が連携・協力しながら、新聞・雑誌などの基礎的な資料、さらに活字化されなかった文書資料などにもとづいて戦時期朝鮮社会の諸問題を実証的に明らかにすることを目的としている。

### 5. 本年度の研究実施状況 (400字程度)

初年度であるため、参加者それぞれの問題意識や取り組んでいる課題を共有すること、また研究者にもあまり知られていない資料を紹介することを研究会の主な目標とした。研究会は月1回であるが、各回2名の発表・資料紹介を行ない、全員が何らかの形で発表することができた。また、7月には、国際シンポジウム「戦時期朝鮮の映画と社会」を開催し、韓国・米国からも研究者を招いて、戦時期朝鮮の社会や文化の状況を映像資料から読み解く試みを行なった。これには他大学の研究者、学生・院生、一般市民も多数参加した。

### 6. 研究成果の概要 (400字程度)

共同研究の参加者が人文研所蔵の資料を利用し、また研究会で得た知見やそこで出た意見を生かしてそれぞれの研究成果を学術雑誌などに発表した。また、研究会で紹介された資料に関して、それらの性格や利用方法、所蔵機関などの情報を共同研究参加者が共有し、将来さらに多くの研究者が利用して研究できる基盤を整えている。

### 7. 共同研究会に関連した公表実績 (出版、公開シンポジウム、学会分科会、電子媒体など)

国際シンポジウム「戦時期朝鮮の映画と社会」(7月14・15日、京都大学人文科学研究所、249名(うち外国人56名)参加)

1日目:映画上映会

2日目：研究発表と討論

「朝鮮映画の戦時体制」 鄭琮樺（韓国映像資料院韓国映画史研究所研究員）

「民族の序列化と「転覆」の可能性—映画「望楼の決死隊」と植民地朝鮮—」

水野直樹（京都大学人文科学研究所教授）

「戦時期朝鮮における言語空間の再編と映画」

李和眞（京都大学外国人共同研究者、延世大学校講師）

「朝鮮映画におけるCode-switching」

ナヨン・エイミー・クォン（デューク大学助教授）

（コメンテーター）ディック・ステゲウエルンス（オスロ大学准教授、日本近代史・日本映画論）、呉徳洙（映画監督）、渡辺直紀（武蔵大学教授、朝鮮・韓国文学史）

8. 本年度の共同利用・共同研究の参加状況

区 分	機関数	受入人数		延べ人数			
		外国人	大学院生	外国人	大学院生		
学内（法人内）	2	7	3	2	59	25	13
国立大学							
公立大学	1	1			6		
私立大学	9	11	5		81	38	
大学共同利用機関法人	1	1			9		
独立行政法人等公的研究機関							
民間機関							
外国機関	3	3	3		6	6	
その他							
計	15	23	11	2	161	69	13

研究参加者の所属機関数、参加人数、延べ人数を区分に応じて記入して下さい。

※「学内」の所属機関数は「学部数」等を記入して下さい。

※参加人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出して下さい。

（例）・1つの共同利用・共同研究課題で2人を共同研究員として3日間受け入れた（参加した場合）：参加人数2人、延べ人数6人

9. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

（参加研究者がファーストオーサーであるものを対象）

論文数		
うち国際学術誌に掲載された論文数	20 ( 17 )	3 ( 2 )

※下段の（ ）内には、拠点外の研究者による成果（内数）を記載。

（注）分野の特性を踏まえて、参加研究者がファーストオーサーである場合の他に、コレスポンディングオーサーである場合や指導した大学院生がファーストオーサーになっている場合など、論文における重要な役割を果たした実績を示す必要がある場合は、その役割を明示の上で論文数を記載。

役割	共同執筆（セカンドオーサー）	
論文数		
うち国際学術誌に掲載された論文数	1 ( )	1 ( )

※下段の（ ）内には、拠点外の研究者による成果（内数）を記載。

※ 高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された場合、その雑誌名、掲載論文数、そのうち主なものを以下に記載。

※ 拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

掲載雑誌名	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名

(注) インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合は、以下に適切な指標とその理由を記載上で、掲載雑誌名等を記載。

拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

インパクトファクター以外の指標とその理由	人文科学分野においてはインパクトファクターそのものの定義が困難であるが、学会誌ないし商業誌として信頼性と多くの読者を持つことで高い評価を得ているものに限定した。		
掲載雑誌名	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名
日本史研究	1	伊藤博文の「メモ」は「韓国統治構想」といえるものか	水野直樹